



第30号

(発行所)

真宗大谷派
松岡山 廣讚寺

中村区城屋敷町3-30
TEL (052) 411-5301
FAX (052) 411-5341

二河白道にがびやくどうについて

正信偈を勤行する。後半に至り「善導独唱仏正意」調子をあげる。

善導大師、ただ一人が念仏の道をあきらかにしなされたとの意(意味)である。大師は「観経疏」玄義分のなかで二河白道の譬喩(ひゆ)として

「今二尊の意に信順して水火の二河を顧みず念々遣ることなく彼の願力の道に乗じて命を捨てて己後力の国に生ずることを得て仏と相見せば慶喜何んぞ極まらん」と説明してみえる。

釋尊と阿弥陀仏を二尊と呼んでみえるが不離一体のなかでもある口語訳をすると次のようになる。

「釋迦はこの方より発遣し弥陀はかの国より来迎して下さる」

さらにこれをくどくどしくいえば次のようになる。現実のこの世界に人間として出現し給える釋迦は、念仏を人びとに勧め白道を進めと教え、西方極樂浄土からは「きたるべし」と呼び給う阿弥陀仏の声をたよりにせよとのことである。

古来この意味を一図に示す習慣がある。書家松田先生のお仲間の古橋英夫師が数年来仏画に精進、七月「二河白道」を完成し廣讚寺に寄贈となった。行事ごとに参詣の皆様方と合掌することにした。



阿弥陀経にてくる高弟子第一「舍利弗」

第一の高弟子は「舍利弗」であります。この方は智慧(ちえ)第一と言われています。舍利弗は類をみない智慧の持ち主で仏弟子の中で智慧第一と呼ばれました。阿弥陀経の説教を聞いて四―五日後舍利弗はお釈迦様に休みをもらい生まれ故郷の母の元に帰り阿弥陀経の話^{ねはん}を母に聞かせました。そしてその日に生まれた室の中で涅槃に入った。それ故この経は母子経とも言う。

阿弥陀経にてくる高弟子第二「摩訶目犍連」

高弟子二番目は「摩訶目犍連」であります。舍利弗とは年齢も近く若い時から意気投合して、舍利弗も目連もはじめはバラモンでありました。

ある時お釈迦様が王舎城にこられた時、お弟子の阿説示(アッサジ)^{たくはう}が托鉢して歩く姿を見た舍利弗は無

心で犯しがたい崇高なようすと透き通るような振る舞いに心うたれた。

「あなたはどなたの弟子ですか」と尋ねた。

それに対して阿説示は

「私は世尊釈迦牟尼仏の弟子」と答えられた。そして

「世尊とは世にも尊い方という意味で、世の中で一番偉い人という意味ではない」といった。

「牟尼とは寂黙迷いごとから完全にはなれたと言うことです」。

この言葉を聴いた舍利弗は阿説示の後を追いかけてお釈迦様にお目にかかりその教えを聴き、ここで彼は心の目を開き友の目連に話し、目連、舍利弗二人ともお釈迦様の弟子になりました。目連は普通の人ができない事をやつてのけた。それで目連は神通第一と呼ばれた。

なお、お盆の行事はこの目連尊者と母親とお釈迦様の考えから始まったものです。

俳句から

丹羽えみ子

十人ぐらいのグループで楽しんでいる句会に提出されました句で感じたことを…。

都都逸を 唄ひ出しそに 杜若 恵子女

万葉の 色をとどめし 杜若 えみ女

同じ「杜若」を題材に詠んでもまるで違った世界があることに驚きました。詠む人の心情が、その句に表現されてその人柄までもまた時代の流れさえも想像される。たった十七文字の配列と、その人の感性によって生まれる一句に心おどる毎日です。



暁天講座に参加

村上三智雄

佐古前町の正晃寺に自転車で出かけた。広讚寺関係の方々のお顔があつて、はじめての私にとっては心強かつた。

講師は臨床心理士の佐賀枝夏文先生であつた。内容は父母と幼いごろに別れた経験を話され、中村久子さんの詩からはじまり正岡子規・九條武子の作品を述べて、失うことから得るものの尊さをやさしく教えて下さつた。

お釈迦様の生・悟・死の時の樹木のことや、荒地に芽吹く一本の草のように静かに生きていく事を教えて下さつた。

雨の中を自転車で帰る。念仏をふとなえ、よいしょとペダルをふんだ。

俳句 五首

えみ女

みちのくのきびしさにたえ 水芭蕉

薫風やギネスブックに浅田真央

花万朶花のおくには岩木山

柚の径白木蓮のふまれたる

黒門の開くことなき白木蓮

【20組行事案内】

二〇命日の集い

・九月二十五日(土) 一時半～三時半

栄生3の14の2 法敬寺

・十月二十五日(月) 一時半～三時半

下中村町1の63 正賢寺

行事予定

九月十一日(土) 七時 同朋委員会・例会

十二日(日) 八時 庭そうじ

(昼おとぎ後、解散)

十九日(日) 二時～四時 学習会

二十三日(祝) 十時 秋季彼岸会

説教 廣瀬純史師

廣讚寺講総会

おかみそり

二十四日(金)

二十五日(土) 三時

彼岸お勤め

二十六日(日) 住職説教

二十八日(火) 十時 二十八日講総会

十月九日(土) 七時 同朋委員会・例会

十九日(火) 二時～四時 学習会

二十八日(木) 十時 二十八日講・女人講